

特別講演 2

「CKD（慢性腎臓病）と日常診療

—CKD 診療ガイドを中心に—

名古屋大学大学院 腎臓内科学教授

松尾 清一 先生

CKD の概念とは、慢性に経過する腎臓病を全て包含した概念であり、明快単純な定義とステージ分類を用いて全ての人に対策の重要性を認識してもらうためのものである。診断には検尿と GFR の測定が必須である。GFR は血清クレアチニン、年齢、性別から推算式を用いて計算するが、日本腎臓学会によるプロジェクト「日本人の GFR 推算式」により、日本人に適合した新しい式が作成された。これにより、日本人の CKD 有病率が明確になるとともに、近年検査機関からの自動レポートシステムの導入も進もうとしている。CKD 対策には、疫学データの集積、合併症リスクの検討、医療連携体制の構築など多くの課題があるが、社会をあげて取り組む必要がある。平成 19 年度から厚生労働省の大型研究「戦略的アウトカム研究」の 6 つのテーマの内の一つにも選ばれ、新規透析導入患者数の減少と心血管合併症の抑制のための臨床研究がスタートした。